

会 告

平成 18 年度農業土木学会賞候補の推薦について(再々)97
 日本農学賞候補の薦挙について(再々)97
 「学会の名称について」シンポジウムの開催について(再)97
 第 22 回水土技術セミナー「農業農村整備事業にともなう環境評価手法；環境評価のノウハウ」
 農村の水辺の生きもの(魚類, 昆虫, 植物)97
 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録について98
 農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行開始について98
 農業土木学会論文集印刷用(完全版下)原稿作成について99
 投稿原稿の閲読状況が確認できます！100
 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」
 の配布について100
 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め100
 農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します101
 学会誌掲載待ち自主投稿原稿の掲載について102
 あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか 平成 18 年「農業土木学会誌」表紙写真の募集102
 第 54 回北海道支部研究発表会の開催について(再) (㊦)103
 第 30 回北海道支部シンポジウムの開催について(第 1 報) (㊦)103
 平成 17 年度東北支部総会・第 49 回研究発表会並びに第 39 回支部研修会・第 29 回地方講習会について(第 2 報) (㊦)104
 第 56 回農業土木学会関東支部大会講演会の開催 (㊦)105
 第 34 回中国四国支部研修会・第 29 回地方講習会の開催について (㊦)106
 平成 17 年度九州支部講演会(第 86 回)シンポジウム開催について(第 2 報) (㊦)108
 九州支部第 28 回地方講習会・第 36 回支部研修会の開催について (㊦)109
 農地保全研究部会第 26 回研究集会(第 2 報) (㊦)110
 国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について (㊦)111
 第 4 回農村研究フォーラムの開催について(第 1 報) (㊦)113
 「2005 ため池フォーラム in みやぎ」開催について (㊦)114
 第 14 回微粒化シンポジウム 微粒化の可能性への挑戦114
農業土木学会論文集第 238 号内容紹介116
学会記事119

農業土木学会(本部)行事の平成 17 年度計画

農業土木学会(本部)17 年度行事について, 下表のように計画しています。奮って参加下さるよう, お待ちいたしております。
 (㊦) のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム, または認定申請中 (㊦) を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 17 年 8 月 23~26 日	平成 17 年度大会運営委員会	平成 17 年度大会講演会 (㊦)		岐阜大学	73 巻 1,3 号
平成 17 年 10 月 26~28 日	高度技術セミナー実行委員会	第 22 回水土技術セミナー (㊦)	農業農村整備事業にともなう 環境評価手法	つくば市	73 巻 8 号

第 73 巻 9 号予定

展望: : 竹門 康弘

小特集: 農村における生物多様性, 外来種・移入種の現状と課題

水田の乾田化がトンボの生息環境に与える影響とその対策: 若杉 晃介他
 青森県の農業用ため池における水生植物と水管理について: 樋口 伸介他
 スクミリングガイ被害の実態と水田浅水管理による抑制効果: 牧山 正男他
 ため池における外来魚・オオクチバスの影響と駆除: 杉山 秀樹他
 湛水休耕田における動物相とその生息量: 櫻井 雄二他

技術リポート

北海道支部: 施策立案を支援する GIS の活用: 菊池 貞雄他
 東北支部: ホタテ貝殻と間伐材の木炭を活用した水質浄化の取組み 「春の小川づくり推進事業」 : 浅利 満
 関東支部: 埼玉県における環境配慮について: 西田 立実
 京都支部: 野洲川下流地区「田園空間博物館」づくりの取組み: 黒橋 典夫
 中国四国支部: 地域の魅力を生かした美しいむらづくりへ向けて 長門大津地区 : 中田 英明
 九州支部: 地域資源を活用した循環型社会の構築と農業農村の活性化に向けて: 栃原 栄一

講座: バイオマス利活用(その 4) 炭化技術 : 凌 祥之他

小講座: 冬期湛水・不耕起栽培: 嶺田 拓也他

私のビジョン: 小規模魚道の伝道師として: 鈴木 正貴

論文をかたる: 多変量解析で魚の気分を探る: 水野 敏明

農業土木学会関連行事予定

平成 17 年 9 月 1 日	畑地整備研究部会	第 44 回畑地灌漑研究集会		九州の畑作と生産環境	別府市	73巻7号
平成 17 年 9 月 7, 8 日	農村計画研究部会	平成 17 年度第 27 回現地研修集会		豊かな農村資源を未来へ 地域が取り組むさまざまな 保全のかたち	福井市	73巻26号
平成 17 年 9 月 29 日	北海道支部	第 54 回研究発表会			札幌市	73巻78号
平成 17 年 10 月 19 日	中国四国支部	第 60 回支部講演会			高松市	73巻67号
平成 17 年 10 月 20 日	関東支部	第 56 回支部講演会			甲府市	73巻68号
平成 17 年 10 月 25, 26 日	中国四国支部	第 34 回支部研修会：第 29 回地方講習会		「土地改良施設の保全と維持管理について」「新たな食料・農業・農村基本計画」等	米子市	73巻8号
平成 17 年 10 月 27, 28 日	京都支部	第 62 回研究発表会			金沢市	73巻57号
平成 17 年 10 月 27 日	九州支部	平成 17 年度講演会（第 86 回）・シンポジウム			長崎市	73巻78号
平成 17 年 11 月 7, 8 日	九州支部	第 28 回地方講習会・第 36 回支部研修会		「土地改良事業計画設計基準」の改定の解説、「新たな食料・農業・農村基本計画」の解説	宮崎市	73巻8号
平成 17 年 11 月 8, 9 日	東北支部	平成 17 年度東北支部総会・第 49 回研究発表会並びに第 39 回支部研修会・第 29 回地方講演会			盛岡市	73巻78号
平成 17 年 11 月 10~11 日	農地保全研究部会	第 26 回研究集会		棚畑および下流域における農地と環境の保全	鹿児島市	73巻78号
平成 17 年 11 月 17 日	北海道支部	第 30 回シンポジウム		北海道の農業生産基盤のこれから 新たな食料農業・農村基本計画における農業土木の役割（仮）	札幌市	73巻8号
平成 17 年 11 月 17, 18 日	水文・水環境研究部会	第 18 回シンポジウム		農林地および広域の水文・水環境	茨城大学農学部	
平成 17 年 11 月 25 日	土壌物理研究部会	第 44 回研究集会		環境修復と土壌物理	東京大学	
平成 17 年 11 月	資源循環研究部会	平成 17 年度研究発表会			幕張メッセ	73巻6号
平成 17 年 11 月	農業水利研究部会	研修会				
平成 17 年 11 月 中旬	農村道路研究部会	平成 17 年度研究発表会および現地見学会				
平成 17 年	材料施工研究部会	第 43 回シンポジウム				
平成 18 年 1 月 25 日	北海道支部	講習会			札幌市	
平成 18 年 3 月	水土文化研究部会	第 3 回水土文化研究部会		先人達の「水土の知」	農業工学研究所	

学会誌 73・74 巻の小特集・特別企画のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A 4 判 1 5 0 0 字 以 内)	原 稿 締 切 (刷 り 上 り 4 ペ ー ジ 厳 守)
73 巻 10 号 施設管理の 20 年の歴史を振り返る（仮）	公募なし	
11 号 農業水利施設のストックマネジメント（仮）	公募終了	
12 号	公募なし	
74 巻 1 号 住民参加型の地域再生（仮）	公募終了	平成 17 年 8 月 15 日
2 号	公募なし	
3 号 地域資源の保全と農業土木（仮）	平成 17 年 9 月 9 日	平成 17 年 10 月 15 日
4 号 美しい里づくり 景観法施行を背景として	平成 17 年 9 月 22 日	平成 17 年 11 月 15 日
5 号 農業土木の国際化のあゆみ（仮）	平成 17 年 10 月 25 日	平成 17 年 12 月 15 日
6 号 大会関連 関東支部（仮）	公募なし	
7 号 湿地・湿原関連	平成 17 年 12 月 22 日	平成 18 年 2 月 15 日
8 号	公募なし	

小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。会告 101 ページに掲載されている特集の趣旨をお読みいただいた後、要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、73 巻 1 号および農業土木学会ホームページに収載の「農業土木学会誌投稿要項」、「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

平成 18 年度農業土木学会賞候補の推薦について（再々）

平成 18 年度の農業土木学会賞（上野賞を除く）を、第 73 巻 6 号、p.80 の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。
締切りは、平成 17 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

日本農学賞候補の推薦について（再々）

日本農学賞候補を、本誌第 73 巻第 6 号、p.79 の推薦取扱規程に則って、ご推薦下さい。締切りは、平成 17 年 9 月末日です。

「学会の名称について」シンポジウムの開催について（再）
学会名称検討委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



当学会名称については、昨年 7 月農業土木学会名称検討委員会
を設置し、検討を進めてきました。

昨年のシンポジウムは、参加者に委員会設立の背景を説明し、
意見を伺い、名称を考える議論のスタートとしました。今回のシ
ンポジウムは、具体的に新たな学会の名称候補案を示し、広く意
見を戴く場として開催いたします。

平成 17 年度大会講演会第 1 日目、下記のとおり開催致しますの
で、奮ってご参加下さい。

日 時 平成 17 年 8 月 23 日（火） 13：15～14：45

場 所 岐阜大学図書館小講堂

司 会 九州大学大学院農学研究院教授 平松和昭
（農業土木学会名称検討委員会幹事）

プログラム

13：15～13：25 開会挨拶

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 田中忠次

（農業土木学会 会長）

13：25～13：45 基調報告

京都大学大学院農学研究科教授 三野 徹

（農業土木学会名称検討委員会委員長）

13：45～14：45 意見交換

進 行：田中 忠次

委員代表：三野 徹

独立行政法人農業工学研究所理事長 宮本幸一

（農業土木学会名称検討委員会副委員長）

財団法人日本農業土木総合研究所専務理事 大串和紀

（ " 委員）

全国土地改良事業団体連合会専務理事 佐藤 準

（ " 委員）

人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授 渡辺紹裕

（ " 委員）

第 22 回水士技術セミナー「農業農村整備事業にともなう環境評価手法；環境評価のノウハウ」
農村の水辺の生きもの（魚類、昆虫、植物）

高度技術セミナー実行委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



近年、農業農村整備事業の実施に当たり、環境への配慮が不可
欠となっています。本セミナーでは、配慮すべき環境として、水
質、動植物の生態系、景観等の主要な環境項目をとりあげ、調査
から解析・とりまとめの方法まで実習を中心に講習します。

そのうち、本年度は、シリーズの 3 回目として水辺の生物調査
の実際についてセミナーを開催します。行政現場や業務で種々の
環境問題に接する技術者の皆さんにとって、有益な学習となるこ
とと信じています。奮っての参加をお待ちしております。

記

1. テーマ 「環境評価のノウハウ 農村の生きもの（魚類、

昆虫、植物）」

2. 開催時期 平成 17 年 10 月 26 日（水）～28 日（金）

3. プログラム

10 月 26 日（水） 午前 セミナー概要，講義
午後 講義

10 月 27 日（木） 午前 現地演習
午後 現地演習

10 月 28 日（金） 午前 室内演習
午後 まとめ，修了書授与

講師は、(独)農業工学研究所のそれぞれの専門家です。

天候不良の場合には、実習は室内で行う場合があります。

長靴 帽子 作業服等の汚れても良い服をご用意ください。

4. 場所 講義：つくば市内または石岡市内

調査の実習：茨城県恋瀬川流域

5. 宿泊 つくば市内または石岡市内のホテル

6. 募集人数 20名

7. 受講費 会員 50,000円(消費税5%,テキスト代を含む)

非会員 60,000円(消費税5%,テキスト代を含む)

8. 募集締切 平成17年9月20日(金)

9. 申込先 農業土木学会高度技術セミナー実行委員会担当宛

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

申込用紙は、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)の各種行事参加申込書をご利用ください。

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害、に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備することとしました。

この災害対応調査団の派遣は、以下の条件としました。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記のことから、この災害対応調査団が構成される場合のメンバーに、皆様方の登録をお願いするものです。登録いただいた場合には、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

上記の趣旨をご参照の上、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494 E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。下記様式は学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)からダウンロードできます。多数の応募をお待ちしております。

専門分野： 水理， 水文・気象， 土壌物理， 土質， 地質・地理， 環境， 地域(農村)計画， 一般， 灌漑排水， 農地造成， 農地整備， 農地保全， 水産土木， 材料・施工， 農業機械， その他

なお、登録頂いた個人情報、は災害対応調査にのみ活用し、プライバシー保護の観点から、適切に取扱います。

農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行開始について

農業土木学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

1. 趣旨

農業土木技術者継続教育制度(以下「機構」という。)は本格的な運用開始後4年目に入り、会員数も7,500名と増加してきています。しかしながら、業務の多忙や身近な研修機会の不足などにより、CPD単位取得ができない方が多くいらっしゃいます。このことにより、在宅で手軽に参加できる方法を求める声が寄せられており、農業土木学会員等を主体に気軽に研鑽できる教育制度の創設が求められています。

そこで、学会、機構双方に入室している方のCPD取得機会を増加するため、多くの農業土木技術者が入室している農業土木学会の学会誌を活用した通信教育の実施を検討してきました。この

たび、本格的なサービスに向けて通信教育を試行することになりました。

2. 具体的な方法

(1) 開始時期と試行期間

学会誌に毎月問題を掲載し、メールにて回答する方法で平成17年10月号より開始し、6ヵ月間試行を行います。

(2) 参加会員の事前募集

この試行に参加を希望の学会員の方は、農業土木学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある**参加申込書**(本誌p.99)に必要事項を記載してメールにて返信願います。

今回の試行が成功し、本格サービスに移行するためには、多く

の会員の参加が必要です。周囲の方に声をかけていただき、多数のかたのご参加を希望します。

今回は試行なので、参加会員になることによる経費は不要ですが、本格運用の場合は、実費をご負担いただく方向で、検討中です。

各号ごとに、正答率によって異なるCPD単位を付与し、次年度のCPD登録に自動的に加算します。

なお、これを機会に農業土木学会、機構への入会を希望される方は、同様にホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>、<http://www.jsidre.or.jp/cpd>）に申込み様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

(3) 申込期限 平成 17 年 9 月末

(4) 試行の事務局

試行の事務局は機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

試行部会の部会長は評価委員会幹事長が当たり、部会員は経験、技術力等卓越した者を部会長が指名し、6 名程度の体制とする予定です。また、採点や CPD 記録の整理などは機構事務局が対応します。

(5) 試行の内容

毎号学会誌に 3 ヶ月前の学会誌の報文を主体（必要に応じて 4 ヶ月前も活用）に事務局が作成した問題を掲載します。問題は択一式とし、毎回 20 問を掲載します。一つの報文から数問、報文の事実的内容から問題を作成します。問題の必要ページ数は 2 ページ程度を予定しています。

回答は、メールにて機構へ返信し、採点して月単位で 7 割正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD を計上し、6 ヶ月間行くと毎号 7 割以上の正答割合で 6 CPD、毎号満点で 9 CPD 単位が得られ、それを

農業土木技術者継続教育機構 通信教育の施行会員の申込み書

学会員番号	98012345
継続教育会員番号	L 21234
ふりがな	つうしん たろう
氏名	通信 太郎
所属	農政局 農業水利事務所 × 課

通信教育の回答様式

回答する問題の掲載された学会誌の番号	Vol	74	No
学会員番号	L 21234	10	月号
継続教育会員番号	つうしん たろう		
氏名	通信 太郎		

回答欄 正解と考える番号を書き込んでください。

問 1	1	問 2	2	問 3	4	問 4	2
問 5	3	問 6	3	問 7	4	問 8	1
問 9	4	問 10	2	問 11	2	問 12	3
問 13	1	問 14	3	問 15	1	問 16	4
問 17	2	問 18	1	問 19	1	問 20	4

問題の量、質に関する質問・意見の欄

継続教育記録として登録します。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

(6) 試行の評価と本格サービスへの移行

試行の結果より、課題、改善点等を把握し、必要に応じ修正を加えた上で本格サービスに移行します。

農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集では、平成 10 年 4 月 1 日以降受付の論文から、掲載適となった論文の最終原稿を A4 版完全版下で提出いただくこととなっております。しかしながら、規定の書式に則って作成されていない原稿がまだまだ多く寄せられております。これらにつきましては、これまで事務局から修正のお願いをし、印刷して参りましたが、昨今、印刷の質が非常に悪いというご意見が多数事務局に寄せられております。

論文集編集委員会では、平成 10 年からすでに 7 年を経ており、現在はもう過渡期でないとの判断から、下記のように対応させていただきますこととなりました。

投稿者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう、よろしく

お願いいたします。

記

1. 論文集の品質の向上を図るため、掲載適となった論文の最終 A4 版完全版下原稿が、投稿の手引き（学会ホームページに掲載）に則って作成されていない場合は、再提出をお願いします。
2. 再提出されない場合には、掲載を見合わせることもありますので、ご注意ください。
3. 完全版下原稿を作成されることが困難で、かつ身近に版下作成業務を請け負う業者がない場合には、学会事務局から業者を紹介いたします。

投稿原稿の閲読状況が確認できます！

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集に投稿中の原稿の閲読状況がホームページで確認できるようになりました。

以下の手順で検索して下さい。

学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) を開く。

「論文集」を選択。

「日本語」または「英語」を選択。

日本語の場合は「閲読状況一覧」、英語の場合は「List of pa-

pers under reviewing」を選択。

投稿した年度を選択（受領ハガキに表示されている受付番号の上2桁が年度を表しています。例：「04101」の場合は、「2004年度」を選択）

PDF ファイルの「閲読状況一覧表」（受付番号、閲読回数、閲読依頼日、閲読返送日）が表示されますので、自分の受付番号から閲読状況を確認してください。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」；International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年9月末には Vol 3, No 3 が発刊予定です。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）

⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料で配布されます。

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003年3月創刊、以後3カ月ごと

国際学会会費：正会員 12,000 円/年/4 冊(送料等学会負担)

学生会員（院生含む）8,500 円/年/4 冊(送料等学会負担)

申込先：農業土木学会編集出版部 吉武宛

ホームページ：<http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは、学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申込みいただけます。

農業土木学会は、300人の国際学会員を募る義務を負っておりますが、現在会員数は280名(8月現在)と微増はしておりますが、いまだ目標会員数には達していません。そのため、編集業務を含め赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき、多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会「国際水田・水環境工学会」；International Society of Paddy and Water Environment Engineering)

を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2005年9月末には Vol 3, No 3 が発刊予定です。

我が国においても学術誌の評価に、SCI(Science Citation Index)

の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor(13 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、

土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等 である。

編集体制：

- Editor in Chief : Dr . Yohei Sato (Japan)
- Editors **および** Editing Board **には世界各国から斯界の権威が就任しています。**
- Managing Editors : Dr . Yoshisuke NAKANO (Japan) , Dr . Nobumasa HATCHO (Japan) , Dr . Yoshito YUYAMA (Japan) , Dr . Ke Sheng CHENG (Taiwan) , Dr . Chun Gyeong YOON (Korea)

出版社：Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格：筆者全員が国際学会員であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

74 巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を、次表に従って広く会員から募集いたします。小特集以外の自主投稿も歓迎します。

また、今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集のテーマは仮題となっておりますので、予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後、公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は、**刷上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

学会誌第 74 巻 3 号 ~ 第 74 巻 8 号までの小特集のテーマ (予定)

小 特 集 の テ ー マ		要旨締切 (必着) (A 4 判用紙 , 1 500 字以内)	原稿締切 (刷上り 4 ページ厳守)
74 巻 3 号	地域資源の保全と農業土木 (仮)	平成 17 年 9 月 9 日	平成 17 年 10 月 15 日
4 号	美しい里づくり 景観法施行を背景として	" 9 月 22 日	" 11 月 15 日
5 号	農業土木の国際化のあゆみ (仮)	" 10 月 25 日	" 12 月 15 日
6 号	大会関連 関東支部 (仮)	公募なし	
7 号	湿地・湿原関連	平成 17 年 12 月 22 日	平成 18 年 2 月 15 日
8 号		公募なし	

74 巻 3 号テーマ：「地域資源の保全と農業土木」(仮)

農村地域では恵まれた大気・水・土壌・景観に代表される自然資源、その上に立脚した歴史・文化や産業などの社会資源が持続性をもちながら今日に引継がれています。これまで農業土木分野の技術は、食料生産を目的として地域の水資源や農地の保全という形で地域の資源保全に大いに貢献してきたといえます。

しかし地域の資源を良好な状態で保全していく上で、地域経済の発展と資源の管理者ともいえる後継者および適正な資源の利活用が不可欠でありながら、農産物価格の低迷や過疎化、高齢化の進展、更には担い手の減少、生産を重視するあまりの非循環型農業による資源の荒廃などの諸問題により、その存続および保全が困難になってきているのが実情です。

このような状況から、地域の資源とは何か、農村地域における自然的資源および社会的資源の両面にわたり改めて見直し、その資源を永続的に適正に利活用しながら保全していこうとする試みが、各方面でなされています。農業土木分野においても、これまでの政策によ

る地域の資源管理や保全の実効性の検証や今後の政策展開に向けての検討が必要となっています。

本特集では、生産基盤、生活基盤、地域の環境、産業および文化といった地域の資源保全に対する農業土木関連の取組みについて、現状の把握と評価、ご意見等、関連報文を、行政、団体、研究機関等に限らず広く募集いたします。多数のご投稿をお待ちしております。

74巻4号テーマ：「美しい里づくり 景観法施行を背景として」(仮)

平成15年には農林水産省における「水とみどりの『美の里』プラン21」の策定、平成17年3月には新たな「食料・農業・農村基本計画」の閣議決定、更に平成17年6月には、平成16年公布された景観法の全面施行など、景観も含めた自然環境整備が各種事業に求められるようになってきています。そして、いずれのプランや法律でも、地域の特性を生かした美しさが重要とされています。しかし、具体的にどのように地域づくりを行えば良いのかはあまり明白ではありません。例えば農林水産省は、「美の里づくりガイドライン」を作成し、具体的地域づくりを行う上で大いに参考になります。しかし、あまりに多くの情報を含んでいるために、事業実施者がどこに焦点を絞って事業を実施すれば良いのかが分かり難くなっているのが現状です。

そこで、具体的な美しい里、自然の保全や町並みの保全、農村の新しい美の価値観に基づく創造、などを中心とした整備事例や考え方について、会員の皆様から報文を募集いたします。多数のご投稿をお待ちしております。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

「私の勤める本」は、原稿の長さ：1,200字(写真・体裁等含む)

刷り上がり1ページ以内(原稿には表紙の写真を含めて下さい。)

学会誌掲載待ち自主投稿原稿の掲載について

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、受理された自主投稿原稿につきまして、できるだけ受理順に掲載するべく努力いたしておりますが、平成17年6月末時点で、掲載をお待ちいただいている原稿は23本あります。執筆者の方々には、大変ご迷惑をお掛けしていること、深くお詫びいたします。

しかしながら、昨今の財政事情から、学会誌1号分ページ数を縮減せざるを得ず、受理したにもかかわらず、直近の号に掲載することが出来ない状況となっております。

編集委員会では、このような状況を勘案し、当初企画を変更して、自主投稿原稿号を設けることといたしました。

掲載待ちの執筆者には大変ご迷惑をおかけしておりますが、もうしばらくお待ち下さいますようお願いいたします。

なお、ご投稿いただきました原稿の中には、論文集の研究報文に適したものもあると思われます。論文集は受理後、直近の号に掲載することとなっておりますので、今後、論文集へのご投稿もご考慮いただきますよう、よろしくお願いたします。

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

—平成18年「農業土木学会誌」表紙写真の募集—

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成18年も皆さまからの写真で表紙を飾ることといたしました。つきましては、下記の要領で学会誌74巻(平成18年1~12月号)の表紙写真を募集しますので、ふ

るってご応募下さい。

本年もテーマを「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」として、公募いたします。下記の趣旨をご理解のうえ、

多数の応募をお待ちしております。

なお、単写真だけでなく、組写真による応募も受付けております。組写真では、3～4枚の写真を組合わせて、ストーリー性を持たせた写真にしてください。

記

1. 趣 旨 これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人びとの生活を支えてきました。

特に人力に頼るしかない時代に施工されたものをはじめとする用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、わが国の気象条件や複雑な水利用を考えると、構造物の設計や施工に高度な工夫と多くの労力が必要であったことが容易に想像されます。

それら多くの構築物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産ともいべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

例年の応募状況から、秋季および冬季の写真についても多数の応募をいただけますよう、お願いいたします。

2. 写真の種類 単写真、組写真いずれもカラープリントで(デ

ジタルの場合は高画質で、ほぼ400万画素以上を目安に)、サイズは六ッ切。組写真の場合は、そのことを明記して下さい。

3. 枚 数 応募点数には制限がありませんが、未発表のものに限ります。
4. 締 切 平成17年9月30日(必着)
5. 審 査 審査委員会(編集委員と写真家)で12点を選びます。
6. 結果発表 学会誌74巻第1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成18年度大会会場でパネル展示します。
7. 賞 品 入選作品1点につき3万円(表紙掲載料含む)。応募者には記念品をお贈りします。
8. 応募資格 学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧め下さい。
9. その他 応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ)を記入して下さい。また、対象物の名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ、だれが、どうして等)もお寄せ下さい。
原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。
10. 宛 先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会 農業土木学会誌編集委員会 「表紙写真公募」係

第54回北海道支部研究発表会の開催について(再)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期 日 平成17年9月29日(木)
2. 会 場 札幌市・北海道大学クラーク会館
(札幌市北8条西8丁目)
3. 講演集原稿の締切
平成17年9月1日(木)
4. 参加申込み
下記様式により、メール、FAXまたは郵送にてお申込下さい。
参加申込みの締切は、平成17年9月20日(火)です。
5. 発表・参加申込先
〒060-8589 北海道大学農学部農業工学科内
農業土木学会北海道支部事務局
担当: 柏木淳一 E-mail:kashi@env.agr.hokudai.ac.jp
☎011 706 3641 FAX 011 706 4145
6. 参加費用
研究発表会講演集代 2,000円(当日会場にて申受けます。)

所属機関 _____
 同上所在地 _____
 申込代表者 _____ TEL _____

氏 名	所 属	備 考

第30回北海道支部シンポジウムの開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- 北海道支部では下記のようなシンポジウムを予定しております。内容、参加申込み方法などの詳細につきましては次号の会告にてお知らせいたします。
1. テーマ「北海道の農業生産基盤のこれから 新たな食料・農業・農村基本計画における農業土木の役割」(仮題)
 2. 期 日 平成17年11月17日(木)
 3. 会 場 札幌市・札幌サンプラザ
(札幌市北24条西5丁目)
 4. 問合わせ先
〒060-8589 北海道大学農学部農業工学科内

農業土木学会北海道支部事務局

☎011 706 3641 FAX 011 706 4145

担当：柏木淳一 E-mail:kashi@env.agr.hokudai.ac.jp

**平成 17 年度東北支部総会・第 49 回研究発表会
並びに第 39 回支部研修会・第 29 回地方講習会の開催について**

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期 日 平成 17 年 11 月 8 日 (火), 9 日 (水)
 2. 会 場 ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING
 〒020 0033 岩手県盛岡市駅前北通 2 27
 ☎019 625 1211 FAX 019 625 1210
 ホームページ
<http://hotel.eki-net.com/metro/106.html>

室課長補佐)

15:20~15:30 閉 会

3. プログラム

< 第 1 日目 > 11 月 8 日 (火)

(1) 総会並びに研究発表会

- 9:00~9:30 受 付
 9:30~10:15 支部総会
 10:15~10:45 支部賞受賞式
 10:45~11:00 休 憩
 11:00~12:00 特別講演「遠野スタイル~小さな街の小さな挑戦~」

講師：本田敏秋氏 (遠野市長)

- 12:00~13:00 昼食・休憩
 13:00~17:00 第 49 回研究発表会

(2) 情報交換会

- 17:30~19:30 会場：「ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING」
 (総会・研究発表会会場と同じ)

< 第 2 日目 > 11 月 9 日 (水)

(3) 支部研修会・地方講習会

- 9:00~9:40 受 付
 9:40~9:50 開会挨拶
 9:50~12:00 第 39 回支部研修会『いわて発 元気な農村づくり』

「公共事業における新たな環境創造への取組み」

講師：滝田一郎氏 (NPO 法人はずみの里 代表)

「直売所成功のポイント」

講師：高橋テツ氏 (JA いわて花巻生活推進部次長)

- 12:00~13:00 昼食・休憩
 13:00~15:20 第 29 回地方講習会

「新たな食料・農業・農村基本計画」

講師：北林英一郎氏 (農林水産省農村振興局事業計画課課長補佐)

「農地・農業用水等の資源保全施策の構築」

講師：村岡宏氏 (農林水産省農村振興局資源保全検討

4. 講演申込みと参加費振込先

今年度の大会全般を岩手県が担当しますが、研究発表会のプログラム編集のみ岩手大学が担当します。そこで、『参加申込み・参加費納入先 (B)』と『研究発表会の講演申込み (C)』が、それぞれ下記のように異なりますので注意して下さい。

A. 参加費

(1) 総会並びに研究発表会

3,000 円 (学生会員 2,000 円) ; 資料代含む

(2) 支部研修会並びに地方講習会

7,000 円 (非会員 : 8,000 円) ; テキスト代含む

(3) 情報交換会

5,000 円

(4) 昼食

1,200 円 (1 食分)

B. 参加申込方法

(1) 申込書式 (下記支部開設のホームページよりダウンロードできます)により所属機関ごと一括して、Fax、Eメールまたは郵送にて申込みください。

農業土木学会東北支部総会・研修会参加申込書

所属機関名： _____

所在地： (〒 _____)

連絡者名 (ふりがな)： _____

電話： _____ FAX： _____

Eメール： _____

所属	氏名	総会・研究発表会			研修会・講習会		合計金額	
		参加費 (学生会員)	昼食	情報 交換会	参加費 (非会員)	昼食		
		3,000 (2,000)	1,200	5,000	7,000 (8,000)	1,200		
例・岩手県	宮城太郎	3,000	1,000	5,000	8,000	1,000	18,000	
例・盛岡農大	盛岡花子	2,000	1,000				3,000	
							総合計 金額	21,000

(2) 申込みおよび問合わせ先

〒020 8570 盛岡市内丸 10 1

岩手県農林水産部農村建設課農地整備担当 (主任主査)

小野寺 忠夫

☎019 629 5681 FAX 019 629 5694

E-mail tadao-o@pref.iwate.jp

(3)参加費等の振込先

銀行名 岩手銀行 県庁支店
口座番号 普通 2001032
加入者名 農業土木学会東北支部大会運営委員会
小野寺忠夫

* 手数料は振込者負担でお願いします。

(4)参加費の納入と取消し等

参加費の納入は、申込みと同時に銀行振込で全額納入してください。なお、参加取消し等による参加費の返金には応じかねますので、ご注意ください。

(5)参加申込み期限

平成 17 年 9 月 30 日 (金)

C. 講演申込方法

(1)講演申込み / 問合わせ先について

講演要旨集原稿に投稿票を添えて、下記へお申込みください。

〒020 8550 岩手県盛岡市上田 3 丁目 18 8
岩手大学農学部 颯田尚哉 (さったなおや)
☎019 621 6191, FAX 019 621 6269

E-mail satta@iwate-u.ac.jp

(2)要 領

原稿の書き方・投稿票については、本誌 73 巻 6 号 (p 87) に記載のように学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) を参照して下さい。また、書式は下記の支部開設のホームページからもダウンロードできます。

(3)発表時間・発表手段

発表時間は 15 分以内 (発表 12 分, 質疑 3 分)
発表補助手段 (OHP, パソコン (Power Point 可, CD および USB メモリースティック使用可)...レンタル予定)

(4)講演申込み受付期間

平成 17 年 8 月 15 日 (月) ~ 9 月 9 日 (金)

5. 宿泊について

事務局では宿泊の斡旋・手配はいたしませんので、ご了承ください。宿泊施設、市街地マップについては岩手県観光協会ホームページ (<http://www.iwatetabi.jp/fr.php?op=stay>), 盛岡観光コンベンション協会ホームページ (<http://www.odette.or.jp/citykankou/frame/frame.html>) に掲載がありますので、参照願います。

東北支部大会の最新情報は下記ホームページでお知らせいたしますので、ご活用ください。

<http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/~re-jabee/index.htm>

第 56 回関東支部大会講演会の開催

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



第 56 回農業土木学会関東支部大会講演会を、山梨県甲府市において来る 10 月 20 日 (木) ~ 10 月 21 日 (金) の 2 日間にわたり、下記の要領で開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。

1. 主 催 : 社団法人農業土木学会関東支部

後 援 : 農林水産省関東農政局, 山梨県

2. 大会および講演会

(1)日 時 平成 17 年 10 月 20 日 (木)

受 付 9 : 00 ~ 10 : 00

支部大会 10 : 00 ~ 11 : 00

講演会 11 : 00 ~ 17 : 00

(2)場 所 ベルクラシック甲府

受 付.....2 階フロア

支部大会.....2 階会議室

講演会.....同 上

会場問合わせ先

ベルクラシック甲府 〒400 0031 甲府市丸の内 1 1 17

☎ 055 254 1000 <http://www.bellclassic.com/>

3. 情報交換会

(1)日 時 平成 17 年 10 月 20 日 (木) 17 : 30 ~ 19 : 30

(2)会 場 ベルクラシック甲府

4. 現地研修会

(1)日 時 平成 17 年 10 月 21 日 (金)

8 : 50 集合 (JR 甲府駅南口バス乗り場)

9 : 00 出発

(2)コース

・東八代郡豊富村 農業集落排水事業 (とよみクリーンセンター), 他

5. 講演会, 情報交換会, 現地研修会の参加申込み方法

(1)申込み

「農業土木学会関東支部大会参加申込書」に必要事項をご記入し、所属機関ごとに取りまとめのうえ、FAX または郵送にてお申込みください。

郵送にてお申込みの場合は、コピー (控え) をとってお申込みください。

支部大会および講演会のみご参加の場合でも参加申込みをお願いします。

【領収書等に係る留意事項】

* 領収書は、次のとおりに分けて発行します。

講演会参加費

情報交換会参加費

現地研修会参加費

領収書および請求書の発行方法については、事務局担当にお問合わせするか、別紙大会参加申込書の備考欄に記載してください。

(2) 申込み期限

平成 17 年 8 月 31 日 (水)

(3) 会費

講演会 5,000 円

情報交換会 5,000 円

現地研修会 5,000 円 (昼食含)

(4) 会費の納入方法

参加申込みと同時に下記銀行口座に全額前納してください。なお、申込み後の取消し・変更については 8 月 31 日(水)以前の申し出に限り、振込手数料等の実費を差し引き返金致します。(9 月 1 日以降のキャンセルについては応じかねますのでご了承の程よろしくお願い致します。)

【留意事項】*送金手数料は、各自ご負担をお願いします。

【会費の振込先】

みずほ銀行 府中支店 (普通) 8121350

名義 関東支部大会事務局 代表 加藤 誠

*振込み元が判別できますよう、所属、氏名等をお知らせください。

(5) 申込先および問合わせ先 (事務局)

〒400 8501 山梨県甲府市丸の内 1 丁目 6 番 1 号

山梨県農政部耕地課技術管理担当

事務局 (担当: 野中, 輿水, 福田)

☎055 223 1627 FAX 055 223 1624

E-mail: kouchi@pref.yamanashi.lg.jp

6. 「大会および講演会、情報交換会、現地研修会」申込様式

講演会、現地研修会参加申込書

送信先 山梨県農政部耕地課技術管理担当 事務局 (担当: 野中, 輿水, 福田)

☎055 223 1627 FAX 055 223 1624

E-mail: kouchi@pref.yamanashi.lg.jp

*講演会、情報交換会、現地研修会の欄は、出席 または欠席×を記入してください。

なお、支払い方法欄には番号(1:事前支払い, 2:当日支払い, 3:終了後請求書払い)を記入してください。

・銀行振込にて支払う場合は、振込者の所属、氏名を記入してください。

・請求書、領収書が必要な場合は、宛先名を記入してください。

第 56 回農業土木学会関東支部大会講演会参加申込書

ふりがな 所属名			電話番号			
ふりがな 申込者氏名			FAX 番号			
所属所在地	〒					
ふりがな 参加者氏名	大会講演会 (10月20日) 出席・ 欠席×	CPD 番号 (農業土木 技術者継続 教育機構)	情報交換会 (10月20日) 出席・ 欠席×	現地研修会 (10月21日) 出席・ 欠席×	お支払い方法 1:事前支払い 2:当日支払い 3:終了後請求 書払い	銀行振込者 所属・氏名

請求書	要・不要	宛先名:
領収書	要・不要	宛先名:

7. その他

1) 会場への案内

JR 甲府駅北口より西側に徒歩 5 分

8. 宿泊場所

宿泊場所の斡旋はいたしませんので、各自申込みを願います。

第 34 回中国四国支部研修会・第 29 回地方講習会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



中国四国支部第 34 回支部研修会・第 29 回地方講習会を 10 月 25 日(火)26 日(水)の 2 日間にわたり、開催いたします。本研修会・講習会の開催要領・参加申し込みについては次のとおりです。多数のご参加をお待ちしております。

1. 課題

(1) 支部研修会: 『土地改良施設の保全と維持管理について』

(2) 地方講習会: 『新たな食料・農業・農村基本計画』『土地改良事業計画設計基準・計画「排水」改訂の解説』、『土地改良事業計画設計基準・計画「農道」改訂の解説』

2. 日時

(1) 支部研修会: 平成 17 年 10 月 25 日(火)

(2) 地方講習会: 平成 17 年 10 月 26 日(水)

3. 場所

米子コンベンションセンター ビッグシップ

〒683 0043 鳥取県米子市末広町 294

TEL 0859 35 8111 FAX 0859 39 0700

<http://www.pref.tottori.jp/bigship/indexj.htm>

4. プログラム

10 月 25 日(火) 支部研修会

「土地改良施設の保全と維持管理について」

9:30~ 受付開始

10:30~10:50 開会あいさつ

11:00~12:00 (仮題)「施設の総合的な保全管理技術の現状と課題」

農業工学研究所地域資源部部長 高橋順二

12:00~13:00 [昼 食]

13:00~14:00 「ブラッシュアップ教育で得られたコンクリート機能診断に必要なこと」
鳥取大学農学部教授 服部九二雄

14:00~15:00 「大井手用水の保全と地域活動」
大井手土地改良区事務局長 有田 斉
(仮題)「貴重な資源(生き物環境)の保全と施設整備」
鳥取地方農林振興局地域整備課主幹 奥村義行

15:00~15:20 [休 憩]
15:20~16:00 (仮題)「水田という装置を永続的に使いこなす」
鳥取県農業試験場水田農業基盤室長 三原正司

16:00~16:50 「農地・農業用水等の資源保全施策の構築」
農村振興局整備部資源保全検討室課長補佐 村岡 宏

16:50~17:00 閉会あいさつ

10月26日(水) 地方講習会

『新たな食料・農業・農村基本計画』『土地改良事業計画設計基準・計画「排水」改訂の解説』、『土地改良事業計画設計基準・設計「農道」改訂の解説』

9:30~ 受付開始
10:00~10:10 閉会あいさつ
10:10~11:10 新たな食料・農業・農村基本計画
農村振興局計画部事業計画課課長補佐 北林英一郎

11:10~12:10 土地改良事業計画設計基準・計画「排水」の改訂の解説
農村振興局計画部資源課課長補 佐原川忠典
洪水解析手法について(仮称) (講師未定)

12:10~13:10 [昼 食]
13:10~14:10 土地改良事業計画設計基準・設計「農道」改訂について
農村振興局整備部設計課施工企画調整室 有働秀憲

14:10~15:10 設計基準「農道」における論点と配慮事項について
北里大学獣医畜産学部教授 今井敏行

15:10~15:20 閉会あいさつ

5. 参加費等

(1) 支部研修会

区 分	参加費	昼食代	合 計
会 員	3,000円	1,000円	4,000円
非会員	4,000円	1,000円	5,000円

(2) 地方講習会

区 分	参加費	昼食代	合 計
会 員	4,000円	1,000円	5,000円
非会員	5,000円	1,000円	6,000円

6. 問合せ先

鳥取県農林水産部耕地課 企画計画担当 森木, 北村
〒680 8570 鳥取市東町1丁目220
☎0857 26 7336(直通) 0857 26 7111(代表)
FAX 0857 37 1281
E-mail: kitamura-h@pref.tottori.jp

7. 参加申込方法

- (1) 申込書 所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ、お申込み下さい。
- (2) 申込締切日 平成17年10月3日(月)
- (3) 参加費の納入方法 参加申込と同時に次の銀行口座に全額前納をお願いします。

振込手数料については、振込人負担をお願いします。

【振込口座】 振込先 山陰合同銀行 鳥取県庁支店
口座番号 普通 3609738
口座名称 支部研修会 地方講習会
実行委員長 坂根 勇

なお、振込後の参加費用等の返還には応じられませんのでご注意ください。

【申込様式】

中国四国支部研修会・地方講習会参加申込書

所属機関 _____

所在地(〒 _____) _____

連絡者氏名 _____

TEL _____

FAX _____

所属	氏名	会員区分	【25日】	【25日】	【26日】	【26日】	合計(円)	農業土木技術者継続教育機構個人会員
			支部研修会 3,000円 (4,000円)	昼食代 1,000円	地方講習会 4,000円 (5,000円)	昼食代 1,000円		
計		会員 非会員	人 人	人	人	人	円	

注) 出席および必要な場合は 印、欠席および不要な場合は×印をご記入下さい。(): 非会員
農業土木技術者継続教育機構の個人会員の方は右端の欄に 印をご記入下さい。

(4) 参加申込先

鳥取県農林水産部耕地課企画計画担当 森木, 北村
〒680 8570 鳥取市東町1丁目220

☎0857 26 7336 (直通) 0857 26 7111 (代表)

FAX 0857 37 1281

E-mail: kitamura-h@pref.tottori.jp

(5) 宿泊案内

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお申込み下さ

い。

(6) 交通アクセスご案内

JR 米子駅より 徒歩約 3 分

米子空港より バス約 40 分

平成 17 年度 九州支部講演会 (第 86 回) シンポジウム開催について (第 2 報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時: 平成 17 年 10 月 27 日 (木) 9:30~17:30

2. 会場: 長崎ブリックホール

〒852-8104 長崎市茂里町 2 38 ☎095 842 2002

・JR 長崎駅から路面電車(赤迫行き)で茂里町電停下車後(約 5 分), 徒歩 3 分

・JR 浦上駅から徒歩 5 分

(1) 受付 9:00~9:30

(2) 開会式 9:30~10:20 国際会議場

(3) 講演会 10:30~17:30

第 1 会場 国際会議場(3F)

第 2 会場 会議室(3F)

第 3 会場 リハーサル室(2F)

(15:30~17:30)シンポジウム

3. シンポジウムについて(プログラム)

課題「九州・沖縄における水と土に関する諸問題」

「水収支解析による池田湖水位の推定」

鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程 伊藤祐二

「農業用水路におけるメダカの生息場選好性に関する研究」

九州大学大学院生物資源環境科学府 福田信二

「閉鎖性水域における流動に及ぼす水生植物の影響に関する研究」

九州大学大学院生物資源環境科学府 尾崎彰則

「未定」

鹿児島大学大学院連合農学研究科博士課程 陳 伝勝

総合司会 琉球大学助教授 中村真也

4. ポスターセッション(国際会議場横のラウンジ)

近年,九州支部講演会においては,学生会員の講演件数が増加しています。また平成 13 年度からは,シンポジウムを支部講演会と同時に開催し,内容の充実を図っています。

したがって,1 課題当たりの講演時間を確保し,プログラムの編成を容易にするために昨年度に引き続き口頭発表に加えてポスター発表を企画しております。このポスター発表は,研究の背景や成果および将来への展望などを発表者と参加者が 1 対 1 の差し向かいで討議できるという口頭発表では現実しがたい特徴を備えています。特によく準備されたポスターとプレゼンテーションは,参加者に感銘と刺激を与えるなど,実り多い討論をもたらすことが期待されます。

本年度は,原則として学生会員(学生部・研究生・大学院修士)を対象に募集します。なおポスターセッションは,会場のスペースの関係で発表者の制限を設ける場合がありますのでご了解下さい。また発表者の中からポスター賞を若干名授与します。

(1) 申込締切 9 月 9 日(金)

(2) 申込先 講演投稿先と同じ

(3) 枚数 1 課題 A 3 版 2 枚以内

(4) その他 ポスターは,講演会の開会式終了までに本人の責任で所定の位置に掲示して下さい。

5. 講演会参加費 5,000 円

(講演集代 4,000 円,昼食代 1,000 円)

6. 現地見学会

(1) 日時 平成 17 年 10 月 28 日(金) 9:00~

(2) 集合場所 長崎駅前

(3) 会費 7,000 円(バス代経費 5,000 円,資料代 1,000 円,昼食代 1,000 円)

(4) 予定コース

出発 長崎駅前 9:00 10:00 諫早湾干拓試験圃場 10:30

11:15 山田原(畑総事業) 11:45 12:15 昼食(島原

市内) 13:00 13:20 まゆやまロード(展望所) 13:

30 13:45 雲仙岳災害記念館 14:45 15:00 みずな

し本陣ふかえ(道の駅) 15:30 16:30 JR 諫早駅(降

車) 17:00 JR 長崎駅(解散)

7. 講演申込先

(1) 投稿締切 平成 17 年 9 月 9 日(金)

(2) 投稿先 (〒840 8502) 佐賀市本庄町 1 番地

佐賀大学農学部 瀬口 昌洋 宛

☎0952 28 8760 (直通)

FAX 0952 28 8709

E-mail: seguchim@cc.saga-u.ac.jp

(3) 原稿の書き方 平成 17 年 6 月号(73 巻 6 号)の会告(支部講演会の投稿票について, p. 87)に従って下さい。

8. 参加申込方法

所属機関ごとに取りまとめのうえ,下記によりお申し込み下さい。

(1) 申込先

(株)ジェーティービー長崎支店

〒850 0057 長崎市大黒町 14 5 ニュー長崎ビルディング (2) 申込期限 平成 17 年 9 月 9 日 (金) まで (FAX 可)
☎095 824 2400 FAX 095 825 0221

平成 17 年度農業土木学会九州支部講演会(86 回)・シンポジウム参加申込書

所属機関名			所在地	(〒)									
申込責任者			TEL		FAX								
NO	フリガナ	所属名	役職	10月27日(木)			10月28日(金)	宿泊			備考		
	氏名			発表 予定者	講演会 出席	シンポ ジウム 出席	講演会 要旨集 (4000円)	昼食 (1000円)	現地見学会 (7000円) 参加	降車駅		10/26 水	10/27 木
例	ナガサキタロウ 長崎太郎	長崎県農林部 農村整備課	技師					諫早駅	A	A		B	
1													

<p>申込記入上のご注意とお願い</p> <p>1. 申込後に「変更」「取消」がある場合は、申込時のコピーに修正を加筆し、備考欄に「変更」あるいは「取消」と明記したものを FAX して下さい。</p> <p>2. 控え(コピー)を必ずお手元に保管下さい。</p> <p>3. この申込書を下記 JTB 長崎支店へ FAX または郵送にてお申込み下さい。 (変更、取消の際も同様)</p>		ご意見欄：
お申込先	〒850 0057 長崎市大黒町 14 5 ニュー長崎ビルディング ㈱ジェーティービー長崎支店 (TEL 095 824 2400 FAX 095 825 0221) 「平成 17 年度九州支部講演会(第 86 回)シンポジウム」デスク	

(注) 現地見学会に参加希望の方は、降車駅をご記入下さい(長崎駅または諫早駅)

(3) 参加費の納入先

宿泊の斡旋を希望される方には、別途宿泊に関する資料等を送付させていただきますので、必ず申し込み責任者の連絡先をご意見欄に記入して下さい。

【振込み口座】

銀行名親和銀行 長崎支店
口座番号(普) 207950
口座名(株)ジェーティービー

9. 宿泊のご案内(ホテル案内図は、学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp> を参照)

10. 取消・変更

講演会要旨集、現地見学会等の申込取消につきましては 14 日前までとし、以降の払い戻しはいたしません。

11. 事務局

長崎県農林部農村整備課計画調整班
(農業土木学会九州支部講演会事務局)
場 所：〒850 8570 長崎市江戸町 2 13
☎095 824 1111 内線 2964 FAX 095 828 3154
担 当：加藤 光一
(E-mail: katou-kouichi062@pref.nagasaki.lg.jp)

九州支部第 28 回地方講習会・第 36 回支部研修会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 演 題

- 1) 地方講習会：『土地改良事業計画設計基準』改訂の解説および『新たな食料・農業・農村基本計画』の解説について
- 2) 支部研修会：地域資源の保全と利活用(仮称)

11月7日(月) 地方講習会

12:00~ 受付
13:00~13:05 開会あいさつ
九州支部長(佐賀大学農学部教授)

加藤 治

2. 日 時

- 1) 地方講習会：平成 17 年 11 月 7 日(月) 13:00~17:10
- 2) 支部研修会：平成 17 年 11 月 8 日(火) 9:30~12:10

13:05~13:10 歓迎あいさつ

宮崎県農政水産部長 長友育生
13:10~14:05 土地改良事業計画設計基準・計画「排水」の改訂について 未定

3. 場 所

フェニックス・シーガイア・リゾート
ワールドコンベンションセンターサミット(3F 瑞洋の間)
宮崎県宮崎市山崎町浜山(☎0985 21 1166)

14:05~15:00 土地改良事業計画設計基準・設計「農道」の改訂について 未定

4. プログラム

15:00~15:15 休憩
15:15~16:10 新たな食料・農業・農村基本計画について

(仮称) 未定
 16:10~17:05 農地・農業用水等の資源保全施策の構築について(仮称) 未定
 17:05~17:10 閉会あいさつ
 宮崎県農村計画課長 山下 博
 11月8日(火)支部研修会
 9:00~ 受付
 9:30~9:35 開会あいさつ
 九州支部長(佐賀大学農学部教授) 加藤 治
 9:35~11:05 綾の照葉樹林プロジェクト(仮称) 未定
 11:05~12:05 未定 未定
 12:10~12:20 閉会あいさつ
 宮崎県農村整備課長 石川善成

銀行口座 宮崎銀行県庁支店(店番号030)
 口座番号(普通)34322
 口座名義 農業土木学会九州支部担当事務局
 杉田建市(スギタ ケンイチ)
 現金書留の場合も上記口座名義人あて送金してください。

農業土木学会九州支部第28回地方講習会・
 第36回支部研修会 参加申込書

年 月 日

所属機関名 _____
 所在地 _____
 電話番号 _____ FAX番号 _____
 連絡員氏名 _____
 参加者 _____

5. 参加費用

講習会テキスト代(5,000円, 非会員6,000円)
 研修会テキスト代(2,000円, 非会員3,000円)
 昼食代(1,000円)

6. 申込み方法

別添参加申込み書により, 所属機関で取りまとめ, 参加費を振込みのうえ, 申込書を送付(FAX可)してください。

なお, 参加費の払い戻しについては応じられませんので, あらかじめご了承ください。

1) 申込み先

〒880 8501 宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号
 宮崎県農政水産部農村計画課内
 (FAX 0985 26 7343)

農業土木学会九州支部 平成17年度講習会担当事務局
 事務局長 杉田建市

2) 問い合わせ先

宮崎県農政水産部農村計画課技術管理担当(中山・徳丸)
 TEL 0985 26 7165(直通) FAX 0985 26 7343

3) 申込み期限

平成17年9月30日(金)

4) 申込み様式

別添のとおり

5) 振込み先

ふりがな 氏名	会員		非会員		弁当代	
	講習会 (5,000円)	研修会 (2,000円)	講習会 (6,000円)	研修会 (3,000円)	11月7日 (1,000円)	11月8日 (1,000円)
記入例 みやま たろう 宮崎太郎						
員数計						
金額合計						

7. 宿泊場所

宿泊の斡旋はいたしません, 会場に隣接する「シェラトン・グランデオーシャンリゾート」については, 特別宿泊料金を設定していますので参考にお知らせします。

なお, 宿泊の申し込みは各自でお願いします。

宿泊施設	シングル	ツイン	備考
シェラトン・グランデ オーシャンリゾート	13,650円	11,550円	1泊朝食付き・サービス料・税金込み
シェラトン・フェニッ クスゴルフリゾート	11,550円	8,400円	1泊朝食付き・サービス料・税金込み

申し込みの際は必ず「農業土木学会九州支部会議」に参加と申し出て下さい。

<問い合わせ先>

フェニックス・シーガイア・リゾート 予約センター

☎0985 21 1113 FAX 0985 21 1239

Email cvsales@seagaia.co.jp

農地保全研究部会第26回研究集会(第2報)
 棚畑および下流域における農地と環境の保全

住民参加による保全を中心に

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 開催日

(1) 研究集会 平成17年11月10日(木)

(2) 現地見学会 平成17年11月11日(金)

2. 場所

(1) 研究集会 〒892-8543 鹿児島市名山町10-22

鹿児島県土地改良事業団体連合会 土地改良会館

(鹿児島市役所から徒歩5分) ☎099 223 6111

(2) 現地見学会 枕崎市, 知覧町, 穎娃町

3. プログラム

- (1) 研究集会 平成 17 年 11 月 10 日 (木) 9:00~17:00
 9:00~9:30 受付
 9:30~9:40 開会式
 9:40~10:40 特別講演
 「薩摩の風土と芋焼酎 さつまいも伝来 300 年」
 薩摩酒造株式会社常務取締役 鮫島吉弘
 11:00~12:00 基調講演
 「日本における On-farm および Off-farm の土壌侵食問題と
 それらへの対応」 鹿児島大学農学部教授 高木 東
 12:00~13:00 昼食
 13:00~13:50 講演 1
 「地域ぐるみで保全水路整備を考える」
 鹿児島県伊集院耕地事務所 小田原宗光
 鹿児島県曾於郡大崎町耕地課 東水流幸一
 14:00~14:50 講演 2
 「奄美地域における赤土等流出防止について」
 鹿児島県大島支庁土地改良課 米澤二三夫
 15:00~15:50 講演 3
 「棚畑保全活動」
 鹿児島県知覧町後岳下棚畑推進委員会代表 丸野 實
 15:50~16:10 休憩
 16:10~17:00 総合討論
- (2) 現地見学会 平成 17 年 11 月 11 日 (金) 8:30~16:00
 薩摩酒造文化資料館 (枕崎市), 農地保全整備事業 (知覧町)
 知覧特攻平和会館 (知覧町), 畑の郷水土利館 (穎娃町)

4. 参加費用等

- (1) 研究集会 資料代 3,000 円
 昼食代 1,000 円 (希望者)
- (2) 現地見学会
 参加費 5,000 円 (バス代 3,800 円 + 昼食代 1,200 円)

5. 参加申込み

- (1) 申込み方法
 申込みは各所属機関ごとに取りまとめの上、「研究集会申
 込書」様式にて郵送または FAX でお願いします。

(2) 申込み先

〒890 8577 鹿児島市鴨池新町 10 1
 鹿児島県農政部農地整備課 堀 洋一郎
 099 286 3236 FAX 099 286 5601
 E-mail: hori-youichirou@pref.kagoshima.lg.jp

(3) 申込み期限 平成 17 年 10 月 11 日 (火)

(4) 参加費の振込み

振込み期限 平成 17 年 10 月 14 日 (金)
 振込口座: 鹿児島銀行 県庁支店 普通 1251005
 口座名義: 鹿児島県農地保全研究部会 代表 比良精一

6. 問合わせ先

(1) 農地保全研究部会事務局

〒812 8581 福岡市東区箱崎 6 10 1
 九州大学大学院農学研究院
 生産環境科学部門 土環境学研究室
 大坪政美 ☎092 642 2920 FAX 092 642 2921
 E-mail: ohtsubo@bpes.kyushu-u.ac.jp
 東 孝寛 ☎092 642 2919 FAX 092 642 2921
 E-mail: higashi@bpes.kyushu-u.ac.jp

(2) 集会幹事県

〒890 8577 鹿児島市鴨池新町 10 1
 鹿児島県農政部農地整備課 堀 洋一郎
 ☎099 286 3236 FAX 099 286 5601
 E-mail: hori-youichirou@pref.kagoshima.lg.jp

農地保全研究部会第 26 回研究集会申込書

所属機関・部課名: _____
 所在地: 〒 _____
 連絡者名 (ふりがな): _____
 電話: _____ FAX: _____
 Eメール _____

ふりがな 氏名	研究集会 3,000 円	昼食 1,000 円	現地見学 5,000 円	合計

国際水田・水環境工学会 2005 年国際研究集会の開催について

テーマ: 持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理

PAWEES 2005 International Conference

On Management of Paddy and Water Environment for Sustainable Rice Production

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



主 催: PAWEES; International Society of Paddy and Water
 Environment Engineering (国際水田・水環境工学会)
 共 催: 日本学術振興会, 農業土木学会, 韓国農工学会, 農業

工学研究所, IWMI, IRRI, CIGR, AAAE, 国際農林水
 産研究センター, ICID, 農業農村整備情報総合セン
 ター, FAO Japan, INWEPF

1. 日 時：2005年9月7(水)～8日(木)
2. 場 所：京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール
3. テーマ：持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理
4. 意義と目的

米は、世界の約半分の人口が主食としている穀物であり、波及する経済も考えた場合、地球で最も重要な作物のひとつといえます。特に米の主要な生産地であるアジアの食糧安定供給、貧困、さらに環境などの問題解決においては、水田農業の適切かつ持続的な維持管理の達成は重要な課題となっています。

2005年9月に京都において開催される国際研究集会〔持続可能な米生産システム確立における水田・水環境管理〕を主催する国際水田・水環境工学会(PAWEES)は2003年1月に設立されました。これは、第3回世界水フォーラムでも議論された水問題、なかでも非常に重要な役割を果たしている水田稲作農業を、流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直し、環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取り入れた新しい技術・学術体系として確立し、その国際化を図ることの重要性の認識に由来しています。学会は、設立以来世界各地の大学、研究機関、行政機関ならびに民間の研究者・技術者の協力を得て発展してきました。また、学会が発行している学術誌「水田・水環境(PWE)」は発行以来多くの支持を集めています。

この研究集会は、内外の研究者のみならず各国の状況に精通した技術者や国際機関の職員を含めた、当分野において主導的役割を担っている者が一堂に会する機会となります。そこで、最新の研究成果の発表および情報交換を行うことにより国際的見識を深めるとともに、水田・水環境分野における今後の重点研究課題を抽出し、将来の国際的研究の方向性を議論します。さらに、過去

の研究成果をいかに実社会に還元していくかの方法論を議論し、食料安全保障や発展途上国の貧困と飢餓の撲滅および農村の発展に貢献していくための方策を探ることも視野にいれています。

さらに、研究集会において水田・水環境工学の研究分野を主導する立場の日本と海外の研究者・技術者との過去に築いてきた関係国・地域、関係研究機関等との連携強化が図られるとともに、その他の諸国との広汎な連携が推進されることも期待されています。

本事業は独立行政法人日本学術振興会(JSPS)の助成事業です。

なお、平成17年4月20日締切りの論文公募に対しては、各セッションごとに多数ご応募いただきました。実行委員会として感謝申し上げます。これらの論文はScience Committeeによって審査され、各セッションで各々8論文が採択されました。このプログラムをお知らせいたします。

5. 参加登録：

登録期間：平成17年1月1日～7月10日(7月10日以降の登録も定員に余裕がある場合のみ、研究集会当日に可能)
参加登録費：10,000円
講演要旨集は研究集会当日にお渡しします。

6. 問合せ先

松野 裕 (PAWEES 事務局長)
近畿大学農学部国際資源管理学科
〒631 8505 奈良市中町 3327 204
E-mail: matsuno@nara.kindai.ac.jp
吉武 幸子 (農業土木学会編集出版部長)
(社)農業土木学会事務局 E-mail: pawees2005@jsidre.or.jp
〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 農業土木会館 3階 1号

プログラム (予定)

9月7日(水)

10:00～11:50 Plenary Session

Opening Address:

Dr. Yohei SATO (Chairperson of Organizing Com.)

Welcome Speech: 1. Dr. Yoneo ISHII (Adviser of PAWEES)

2. Dr. Soon-Kuk KWUN (President of PAWEES)

Keynote Speech:

1. Dr. Robert Zeigler, DG, IRRI

2. Dr. Frank RIJSBERMAN, DG, IWMI

Session 1 Multi-functionality

13:10～13:40 Keynote Speech: Mr. Kazumi YAMAOKA (NIRE)

13:40～14:00 Protocols for Estimating Magnitudes and Values of Paddy Rice Multiple Foundations: G. Levine et al(USA)

14:00～14:20 Multi-functionality of Paddy Rice Cultivation: Review and Future Prospects for Japan and other monsoon Asia: Y. Matsuno et al(Japan)

14:20～14:40 Multifunctionality and Non-trade Concerns: Implications for Future Agricultural Policies in Asia: R. N. Boisvert et al. (USA)

14:40～15:00 The External Benefits and Preference with Attributes of Farmland in Taiwan: C. K. Hsiao (Taiwan)

15:00～15:20 Coffee break

15:20～15:40 Assessment of Quantity and Monetary Values of Multi-functionality of Paddy Fields in Taiwan: C. H. Tan et al(Taiwan)

15:40～16:00 Assessment of Flood Prevention Function of Paddies in Low-lying Areas by a 2D-FEM Model: P. T. Hai et al(Ja-

pan)

- 16 : 00 ~ 16 : 20 Long-term Evaluation of Groundwater Recharge from Paddy Field with Urbanization in the Nhobi Planes: M. Imai-zumi et al(Japan)
- 16 : 20 ~ 16 : 40 Regional Water and Heat Balance in Sedatani Paddy Field Cidanau Watershed: S. K. Saptomo et al(Indonesia)
- 16 : 40 ~ 17 : 20 Discussion
- Session 2 Integrated water management
- 13 : 10 ~ 13 : 40 Keynote Speech: Dr. B. A. M. Bouman (IRRI)
- 13 : 40 ~ 14 : 00 Application of Integrated Water Resources Management for Mae Klong River Basin, Thailand: Bancha Kwanyuen et al(Thailand)
- 14 : 00 ~ 14 : 20 A Reservoir Operation Method Based On Temporal Water Allocation For An Irrigation System In A Tropical Monsoon Climate: M. Yanuar et al(Indonesia)
- 14 : 20 ~ 14 : 40 Regional Water Allocation Model For Evaluating Spatial and Temporal Characteristics of Water Shortage in Paddy-Farming Areas:
Tzai-Hung Wen et al(Taiwan)
- 14 : 40 ~ 15 : 00 Optimal Management of Agricultural Wastewaters for Improving River Water Quality: Shigeya Maeda et al(Japan)
- 15 : 00 ~ 15 : 20 Coffee break
- 15 : 20 ~ 15 : 40 Analysis of Water Management in a Irrigation Project of Run-of-river System in Southern Thailand: KONO Satoshi et al(Japan)
- 15 : 40 ~ 16 : 00 Future Prospect of Studying Agricultural Water Management in India: Naoya Fujimoto (Sri Lanka)
- 16 : 00 ~ 16 : 20 An Integrated and Public Participated Water Management Policy in Taiwan: Chen, S. -H. et al(Taiwan)
- 16 : 20 ~ 16 : 40 Studies on Run-Off, Soil Erosion and Sedimentation using Water Erosion Prediction Project (WEPP) in Cidanau Watershed, Banten Province, Indonesia: Budi I. Setiawan et al(Indonesia)
- 16 : 40 ~ 17 : 20 Discussion
- Session 3 Environment and Food security
- 13 : 10 ~ 13 : 40 Keynote Speech: Ms. Sasha Koo (FAO)
- 13 : 40 ~ 14 : 00 NPS pollutant discharge characteristics from paddy fields -Current research trend in Korea: Joongdae CHOI et al. (Korea)
- 14 : 00 ~ 14 : 20 Decrease of Nitrogen Concentration Containing High Nitrate Nitrogen in the Paddy Fields: Hideo NAKASONE (Japan)
- 14 : 20 ~ 14 : 40 Evaluation of nitrogen removal in a paddy field and a reservoir within an agricultural watershed: Kato Tasuku et al. (Japan)
- 14 : 40 ~ 15 : 00 Field Learning Program using Paddy Plots in Wakamatsu, Kitakyusyu: Nongdi Wu et al(China)
- 15 : 00 ~ 15 : 20 Coffee break
- 15 : 20 ~ 15 : 40 Sustainable Rice Production Achieved By Mutation Breeding: A. W. Baloch et al(Pakistan)
- 15 : 40 ~ 16 : 00 Improving the productivity of degraded cropping systems in Northeast Thailand: Improving farmer practices with innovative approaches: Andrew D. Noble (Thailand)
- 16 : 00 ~ 16 : 20 Development of a distributed water balance model with agricultural water use mechanisms in Monsoon Asia: Shimizu Katsuyuki et al(Japan)
- 16 : 40 ~ 17 : 20 Discussion
- 9月8日(木)
- 9 : 30 ~ 10 : 00 Keynote Speech: Sustainable water management: Dr. Keizrul bin ABDULLAH (President of ICID)
- 10 : 00 ~ 11 : 00 Reports of each session conclusion
- 11 : 00 ~ 11 : 30 Discussion
- 11 : 50 ~ 12 : 10 Kyoto declaration
- 12 : 10 ~ 12 : 20 Closing ceremony: Dr. Tadatsugu TANAKA (President of JSIDRE)

第4回農村研究フォーラムの開催について(第1報)

独立行政法人農業工学研究所

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



農村地域の活性化のためには、産学官と地域住民の力を結集した連携が必要です。このため、学際的かつ多分野間の情報交流を図り、農村の将来展望を切り開くことを目的に開催します。

テーマ(仮): 農村は頑張る! ~農村活力の再生を目指して~

日時: 平成17年11月22日(火) 13:00~17:00

場所: 秋葉原コンベンションホール 東京都千代田区外神田1
18-13(秋葉原ダイビル内2階)

主催: (独)農業工学研究所 共催: 農業土木学会他(予定)

後援: 農林水産省他(予定)

参加費: 無料

基調講演

「アグリルネッサンスによる農村活力の再生を目指して（仮）」
山本雅之（地域社会計画センター・常務理事）

講演

都市住民の農村地域への定住に向けて（仮）
大橋南海子（まちづくり工房・代表取締役）
景観形成による農村再生について（仮）

山本徳司（農業工学研究所・農村計画部）

グリーンツーリズムによる農村再生について（仮）
荒樋 豊（秋田県立大学・教授）
直売・産直による農村再生について（仮）

櫻井清一（千葉大学・助教授）

問い合わせ先：農村研究フォーラム事務局（農業工学研究所企画調
整部内）☎029 838 7675

「2005 ため池フォーラム in みやぎ」開催について

テーマ：「ため池の保全と活用」～水土里のふるさと、未来へつなぐメッセージ～

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



先人の英知により築造され、たゆまぬ努力により維持されてきた農業用ため池は、農業用水源としての役割だけでなく、洪水調節をはじめ生態系の保全、憩いの場の提供など多面的機能を有しています。

本フォーラムは、貴重な地域資源となっている「ため池」の価値を再認識し、良好な状態で次の世代に継承するため、ため池の多面的機能の発揮など「ため池」の保全と活用を検討し、全国に発信するものです。

- 1 開催月日：平成 17 年 10 月 19 日（水）～10 月 20 日（木）
- 2 会場：第一日目本会議会場 宮城県仙台市「宮城県民会館」
第二日目現地研修会 大沼（仙台市）、加瀬沼（多賀城市）
- 3 主催：「2005 ため池フォーラム in みやぎ」実行委員会
（「宮城県」および「水土里ネットみやぎ」で構成）
- 4 後援：農業土木学会ほか 8 機関
- 5 参加費用：本会議（1 日目）5,000 円
現地研修（2 日目）4,000 円
- 6 参加申込：各県、水土里ネット（県土地改良事業団体連合会）
に参加申込書を送付していますので、ご利用下さい。
- 7 問合せ先：宮城県産業経済部農地整備課水利防災班 丹野，福田
☎022 211 2874（直通）

水土里ネットみやぎ企画広報班 高橋，及川
☎022 263 5812（直通）

8 プログラム

第 1 日目 平成 17 年 10 月 19 日（水）13：00～16：45
宮城県民会館（仙台市青葉区国分町 3-3-7）

(1)フォーラム本会議（大ホール）

基調講演 作家 椎名 誠

パネルディスカッション

コーディネーター 宮城大学食産業学部 教授 加藤 徹

パネリスト

- ・作家 椎名 誠
- ・（株）一ノ蔵マーケティング室長 山田好恵
- ・機織沼ふるさと保全隊長 森本欣八郎
- ・NPO シナイモツゴ郷の会 高橋清孝
- ・農林水産省防災課長 片桐正彦

(2)情報展(1階ロビー)

- ・「宮城のため池写真展」
- ・「宮城の農村景観・農業農村整備事業写真展」
- ・「全国ため池のある風景写真コンテスト入賞作品展」

第 2 日目 平成 17 年 10 月 20 日（木）8：30～14：00

現地研修 大沼（仙台市）
加瀬沼（多賀城市）

第 14 回微粒化シンポジウム《微粒化の可能性への挑戦》

Fourteenth Symposium (ILASS - Japan) on Atomization

主催 日本液体微粒化学会 (ILASS-Japan)・ILASS-Asia・日本エネルギー学会

協賛 農業土木学会他

1. 開催趣旨 微粒化技術は、エネルギー機器・金属粉末製造・医薬・農業・食品・塗装など、広く利用されているためその重要性はますます高まっています。本シンポジウムは、多方面からの研究者・技術者が集まり、研究成果や研究開発中に

生じた問題点や解決策の報告をとおして、産官学が一体となって微粒化技術の新しい展開をはかることを目的としています。

2. 開催要領 期日：平成 17 年 11 月 17 日（木）～19 日（土）

場所：八戸グランドホテル

〒031 0031 青森県八戸市番町 14 番地

(TEL：0178 46 1234)

詳細は <http://www.hachinohegrandhotel.com/> をご参照下さい。

3. 内 容 一般講演，特別講演，技術懇談会および微粒化関連のカタログ展示等を企画しております。詳細は学会ホームページ (<http://www.ilass-japan.gr.jp>) を参照願います。

4. 講演申込方法 (申込み受付開始は7月下旬を予定しています。)

(1) 講演申込：平成 17 年 9 月 9 日 (金) までにホームページ (<http://www.ilass-japan.gr.jp>) から申込んで下さい。または，講演論文担当事務局に直接ご連絡いただいても結構です。

(2) 講演論文原稿締切：平成 17 年 10 月 17 日 (月) までに，執筆要領に従って作成した原稿を「講演論文担当事務局」宛ご送付ください。(一昨年フォーマットが変わっております。)

講演論文担当事務局

〒376 8515 群馬県桐生市天神町 1 5 1 群馬大学工学部
機会システム工学科エネルギー第三研究室 微粒化シンポ
講演論文担当幹事 古畑朋彦

☎0277 30 1523 FAX : 0277 30 1521

E-mail: furuhata@me.gunma-u.ac.jp

5. 参加申込方法

シンポジウム参加要領は以下のとおりです。(講演者も必要です)

(お申込受付開始は7月下旬を予定しています。)

(1) 参加費：参加費には講演論文集代等を含みます。技術懇談会は 11 月 18 日の講演終了後を予定しています。なお，協賛学協会の会員の方々は「会員」の資格で参加できます。
会費 事前申込 6,000 円 (申込期限後 7,000 円)
非会員 事前申込 9,000 円 (申込期限後 10,000 円)
学生 3,000 円
技術懇談会 5,000 円 (学生は 1,000 円)

なお，シンポジウム会場の八戸グランドホテル宿泊者の参加費 (学生除く) につきましては，上記より 1,000 円引きと致します。

(2) 事前申込方法：平成 17 年 11 月 10 日 (木) までに，下記

の郵便振込口座または銀行口座に合計額を振込み，ホームページ (<http://www.ilass-japan.gr.jp>) からお申込んで下さい。または，氏名・所属・連絡先 (電話・FAX・E-mail 含む)，技術懇談会参加の有無を明記の上「参加担当事務局」に直接お申込みください。

郵便振替口座

口座番号：00950 7 246218

口座名称：日本液体微粒化学会

銀行口座

みずほ銀行日吉支店 普通口座：2101416

口座名称：日本液体微粒化学会

参加担当事務局

〒031 8501 八戸工業大学工学部機械情報技術学科事務室

気付微粒化シンポ 参加担当幹事 坂本勝男

☎0178 25 8268 FAX : 0178 25 2008

E-mail: katuo@hi-tech.ac.jp

(3) 宿泊について：本シンポジウム会場の八戸グランドホテル等を格安料金 (朝食付き) で宿泊できます。また，本シンポジウムは青森県からの補助金を受ける関係で，参加者の述べ宿泊数の把握が必要ですので，なるべく，下記の旅行代理店を通じてお申込みいただきますようお願い致します。部屋数には限りがありますので，10 月 31 日 (月) までに直接ご予約下さい。

三八五観光(株)営業 2 部 担当：田端，林

〒031 0086 八戸市八日町 2 番地

☎0178 44 8181 FAX : 0178 44 8184

(宿泊申込書ダウンロード開始は7月下旬を予定しています。)

また，上記代理店を通さず宿泊された場合，会場にて参加登録の際に宿泊先と宿泊数をお尋ねすることがあるかと思いますが，何卒御協力をお願い致します。

6. 実行委員会

委員長 大黒正敏 八戸工業大学工学部機械情報技術学科教授

〒031 8501 八戸市大字妙字大開 88 1 ☎0178 25 8044

FAX 0178 25 2008 E-mail: daikoku@hi-tech.ac.jp